

TADESKA 議事録

2013年10月6日（土）14:30～

関西学院大学梅田キャンパスハブスクエア1001教室

出席者：各務恭子、Levente Borsos, 村上陽子、長瀬由美、小川雅美

テーマ：「生教材を準備する」

市販教材ではなく、スペイン語圏の実生活で使用されている素材を教室で利用するためのヒント、手持ちの素材の意味解釈などについて、話し合った。適宜、インターネットを利用して、実際の音や映像で内容を確認した。

長瀬さんは、歌“Caruso”（Ainhua y Miguel Nández）を紹介し、歌詞で不明な部分をメンバー全員で曲を聞いて考えた。また、話し合いの中で、この曲の使用法として、韻を踏んでいる所を学生に聞き取らせたり、動詞の部分を聞き取らせたりする活動の提案が出た。

http://www.youtube.com/watch?v=g_sW8bNe0Fk

Borsosさんは、インターネットから、スペインのスーパーマーケットの食料品のカタログをダウンロードし、これを教材にしていろいろな活動に使えると提案した。数字の練習、名詞の練習の他、同じような商品を他のスーパーのカタログと比較し、どちらの店が安いかという会話をさせることも可能である。また、話し合いの中で、スペインなどで売られている商品と日本の商品とを比較できることも大変興味深いという意見で一致した。

<http://www.dia.es/gestorContenido.html?action=getCajas4Pagina&idPagina=1>

小川は、授業でしばしば生教材を使うので、それらの紹介、聞き取りの困難な報道についての質問、提案などを行った。使用実績のあるものでは、スペインの小学校の算数の問題集（スペイン語の文章が大変わかりやすく、一義的である。ある程度読めれば計算もできる）、スーパーの広告（いくつかの国のものを用意すると比較できておもしろい。ただし、使ううちに紙が悪くなるので、ネットからダウンロードする方がよいかもしれない）、天気予報（ある程度のパターンの中で変異があるので使い勝手がよいし、地理を学べる）。新しい提案として、甲子園にあるテーマパーク KidZania（キッザニア）の発祥の地がメキシコであることから、メキシコの KidZania のホームページを教材に使えることを示唆した。メキシコ社会の現状から、子どもたちへの職業教育も兼ねていることが推察できて興味深い。

<http://santafe.kidzania.com/es/>

各務さんは、高校でスペイン語劇の指導をしているが、高校生向けの作品を探すのが難しい。今は舞台がスペインでないものを使用しているが、できればスペイン語圏のものがよいと考えている。Borsos さん（ハンガリー人）が、ヨーロッパで学生によるスペイン語演劇コンクールがあると教えてくれたのでネットで調べた。

（TADESKA で調べたのとは同じではないが、次のようなページがある）

<http://www.mecd.gob.es/bulgaria/dms/consejerias-exteriores/bulgaria/publicaciones/2012/obras -teatro jun2012/obras %20teatro jun2012.pdf>

村上さんは、生教材を自分の授業で使用することはこれまであまりなかったが、積極的にコメントをしてくれ、また、小川が聞き取れないニュースのディクテーションを助けてくれた。

生の素材は多岐にわたるし、学生の関心も惹きやすい。その点で、教材にしやすい。ただし、使用する教師が素材の読み方や意味を理解しているかどうかには注意が必要である。歌詞はインターネットに掲載されているものが正しいか、どのバージョンなのか検証しなければならない。そして、どういう学生たちに、どういう目的で教えるかという狙いを明確にした上で、教授用に教師が加工したり、素材のよさを引き出すアクティビティを考案する必要がある。

イレギュラーな活動をしたこともあり、出席者が少なかったが、全員でざっくばらんに話し合い、新しいヒントを共有できて有意義であった。

（報告者 小川雅美）